



育連だより



<https://web-k.jp/ikuren/new/>

コロナが過ぎて本格始動！

高津区子ども会連合会 藤原 忠興

2019年12月初めから4年の月日、数々の子ども会行事もコロナによる制約を受けました。そんな中、高津消防署と高津区子ども会連合会共催の「高津地区少年消防クラブ」の活動は、子どもたちが「火災予防や防火知識を身につける」ことは待ったなしとの判断から、万全のコロナ対策をしながらできることを実施してきました。

少年消防クラブ活動は、高津地区・橘地区が隔年交代で行っており、2023年度は高津地区担当で、6月17日の結成式には地区内6つの子ども会から31名が集まりました。

第1回目のクラブ活動は、高津消防署内で防火衣装着・はしご車搭乗体験。青空に向かってはしごがぐんぐん伸び、マンション11階ほどの高さに上がった子どもたちは怖がりながらも、「すご〜い、高い〜！」と歓声をあげていました。東京タワーやスカイツリーが見えたそうです。

第2回目は、4年ぶりに開催された高津区民祭での大山街道パレード参加。熱中症警戒アラートが発動される猛暑日でしたが、消防カラーガード隊とともに演奏に合わせて元気に行進しました。大勢の観客から拍手と声援をもらい、制服も汗びっしょりになりましたが、隊員たちははちきれんばかりの笑顔で応えていました。

第3回目は、夏休みならではのイベント、米海軍日本管区司令部消防隊施設見学と放水体験。入門ゲートで、「ここからアメリカです！」と言われ、

拳銃を腰にライフル銃を肩から下げたMPに身分確認をされて基地内に入りました。そこは、日本の見慣れた景色とは違い、街並みやマンション街が整然とした佇まいで、約3万人が住み、日本人約6,000人もあらゆる部門で働いているそうです。

消防隊の歓迎セレモニーでは、隊長以下全員が出迎えてくださり、隊長の英語によるスピーチ、それを通訳されて初めてみんなの緊張がほぐれた様子でした。記念撮影後、アメリカ式消防訓練を体験。放水訓練は、日本の消防よりも大きなサイズのホースで重く、水量も多く迫力がありました。

消防防護服の着衣体験では、安全のための装備の重さを実感。洋服に火が付いた時の消火体験は、横になり・ストップ・ドロップ&ロールの指導に真剣に取り組みました。

昼食は基地内のマクドナルドで、アメリカのビッグサイズのハンバーガーとコーラに驚いていました。

午後は、バスの中から基地内を見学し、アメリカから出国しました。それから、横須賀軍港巡り遊覧船で港内を40分周りました。巡り合わせがよく、南極船【しらせ】やイージス艦・駆逐艦・潜水艦などを目の前で見ることができました。

「少年消防クラブ」は、地元の消防署と子ども会の長いつながりから、消防活動を通じて地域での防災について知る機会を提供していただいています。この隊員たちの中から、消防官になる夢を持つ子どもが育ち、地域を守ってくれることを願いながら、活動しています。これからの活動は、高津区防災訓練・新年出初式・終了式です。



ボーイスカウト 夏の活動

日本ボーイスカウト川崎地区協議会 国際委員長 西角 恵 輔

〈第29回 ボルチモア—川崎スカウト交流〉

パンデミックによる3年間の派遣中止の末、7月22日から8月7日にボルチモア—川崎スカウト交流は復活しました。米国ボーイスカウトボルチモア地区より5名のスカウトと5名のリーダーを迎えました。ボーイスカウトとガールスカウト、老若男女が力を合わせて、最高のおもてなしと交流が実現できました。以下に本交流に対する青年リーダーの感想を紹介します。

ボーイスカウト川崎第54団 長澤 佳祐

今回のBK交流では、FBC隊の副長と3776隊隊長であるKeeganの受け入れをした。ホストファミリーとして参加の経験はあったが、リーダーと兼任は初だった。なかなかハードなスケジュールだったが充実した16日間であった。FBCの活動中は副長としての引率もあって、その中でガールスカウトと合同の活動ということもあり、スカウトとの関わり方にも一抹の不安はあった。しかし、いざ始めてみると、指導者陣の協力もあり、円滑に終わることができた。特にキャンプでは日米、ボーイガール間のスカウトの距離感が近くなり、指導者としてのやりがいを感じることができた。来年以降の派遣イベントにも積極的に参加し、活動を盛り上げたいと思いました。



ガールスカウト神奈川県第32団 平田 彩果

コロナ禍によって途絶えていた川崎市とボルチモア市の派遣事業が4年ぶりに再開した。2019年に私はスカウトとしてボルチモアに行き、今年はリーダーとしてボルチモア隊の受け入れ準備を行い、富士登山とキャンプに参加した。久しぶりに会う仲間との再会と新しい仲間との出会いは、スカウト活動の素晴らしいところだと改めて感じた。また、キャンプを作り上げていくのは簡単ではなかったが、同年代の仲間がいたことはとても心強く、私たちも楽しむことができた。今回参加したスカウトたちが、4年前の私のように国際交流の良さを感じ、来年度の派遣に興味を持ってくれたらと思う。そして、自身もまたボルチモアを訪問する機会があればと感じた。



〈第25回 世界ジャンボリー〉

第25回世界スカウトジャンボリーが、8月1日から12日までの日程で、韓国・全羅北海セマングムで開催されました。この大会は、世界150以上の国と地域から約4万人以上が集い、このうち日本からは1,568名が参加しています。川崎地区からも17名のスカウトが参加しました。以下に参加スカウトの感想を紹介します。

日本派遣団第2隊川崎第46団 原田 莉子

ジャンボリーから帰ってからも、いまだに写真フォルダを見返して余韻に浸ってしまうくらい、充実した時間を過ごしました。会場は想像以上の暑さであったり、台風の影響により途中で移動することになってしまったりと、大変なこともあったけれど、それ以上の楽しさがあったと感じています。私は11年間ボーイスカウト活動をしていますが、今までの中で一番楽しく、参加して良かったと思っています。英語は、全く得意ではなく、むしろ苦手でしたが、外国のスカウトと話したり、バッジなどの物を交換（スワップ）したりして仲良くなりました。開催国の韓国のスカウトとは、一緒に腕相撲大会も行いました。派遣を通して、英語に対しての苦手意識も減って、もっと話せるようになりたいと思うようになりました。今は、4年後のポーランドにISTとして参加したいと考えています。それまでに、もっともっと英語を勉強して、今回以上に楽しみたいです。



ラムはとても楽しく、カヌーやウォータースライダー、VR体験などの各プログラムと海外隊と交流する異文化交流などのたくさんの活動ができて、ジャンボリーに行けて良かったと感じました。最後に自分は、同じサッカーチームを応援している人が隣のイギリス隊にいて、そのことについて話せたのが嬉しい思い出になりました。

日本派遣団第2隊川崎第46団 風呂田 結

実際に行くまでは海外であること、ジャンボリーに参加するという実感が湧いていませんでした。いざ会場に到着すると、すぐ近くからたくさんの言語が聞こえてきます。そこで初めて本当にジャンボリーに来たんだ！という実感が湧き、物怖じせずに話しかけようという思いで海外のスカウトとコミュニケーションを取ることが出来ました。英語が流暢に話せるわけではありませんが、英会話に対しての苦手意識はあまり持っていなかったため、英語での会話も楽しく行うことができました。参加スカウトとしての経験はもう二度と出来ないと思うと後悔している部分もありますが、ジャンボリー参加に向けて後押ししてくれた家族やジャンボリー運営の方への感謝の気持ちが大きいです。その楽しさや感動を後輩のスカウトにも共有したいと思っています。ジャンボリーに行く前は、あまり魅力を感じていなかった4年後のポーランドも今では「行きたい!!」という思いが強くなり、語学の勉強も前向きな気持ちで出来るようになりました。最近では洋画、洋楽など積極的に英語を聞くようにしています。



日本派遣団第8隊川崎第22団 三浦 靖太

私は、海外スカウトとの交流や8隊で活動していて、ジャンボリーをとても楽しく過ごせました。隊はみんな仲が良く、盛り上がっていて楽しかったし、また会いたい、一緒に活動したいと思える隊でした。プログ



4年ぶりの八ヶ岳キャンプ

麻生区子ども会連合会 本田 知生

コロナの影響で、ずっと中止していた八ヶ岳キャンプを、4年ぶりに再開しました。

子どもリーダー研修生を対象に実施しているこの2泊3日の宿泊研修では、子ども達は6月の企画会と7月の事前研修を経て、8月の八ヶ岳キャンプを迎えます。班行動を基本とすることで、上級生が班長となり下級生をまとめていく。下級生も必死に上級生についていく。学区と地域を限定しない麻生区全域での活動とする子どもリーダー研修であるがゆえに、仲間の輪が広がっていく。こういった活動で将来のリーダー的存在を担うべく、集団での行動や人前でも動じない度胸を学んでいくことを狙いとしています。

八ヶ岳キャンプ当日は、年々気温が上がる中、山はすっきりと晴れ渡り、夜の星空観察で天の川が見れるかも！と期待が膨らみます。

1日目は夕食のカレー作りと、星空観察です。7月の事前研修でしっかりとカレー作りを練習してきた成果が発揮され、どの班もとてもおいしいカレーを作ることができました。班によって、野菜の大きさの違いや、水加減の違いで特徴があり、JLのお兄さんお姉さんは「ちょっと頂戴！」と各班のカレーを食べ歩き、子ども達はその感想に期待を寄せます。その姿が微笑ましく、大人の楽しみの一つであります。星空観察では、外で順番を待っている時はきれいに星が見えており、運よく「スターリンク衛星」



を見ることができました。しかし、中で望遠鏡を見るときには曇ってきてちょっと残念。来年に期待します。また、以前であれば、就寝時は消灯後の仲間との「こっそりおしゃべり」が子ども達の楽しみなのかと思いきや、疲れたのか全員ぐっすり(笑)。これもまた微笑ましい思い出となりました。夜の見回りを想定していたJLのみんなも「自分たちの時はあーだった、こーだった」と思い出がよみがえります。

さて、メインイベントの2日目。今年は『陶芸体験』を準備してもらいました。準備してくれた麻生区子ども会連合会副会長の及川さんは「3年前からやろうとしてたけど、コロナで毎回中止になってしまって、快く引き受けてくれている陶芸屋さん申し訳なく思っていた。今年はやれてよかった。」と振り返ります。実際にやってみると、土を触る機会が少なくなっている近年では、土でお皿を作っていくのがとても楽しく、みんなそれぞれの発想で独創的なお皿ができあがっていました。

来年に向けて、また楽しい企画を実施できれば最高です。ありがとうございました。



日常的に使えるロープワーク

川崎海洋少年団 山岡 修

海洋少年団の基本的に行っている訓練のひとつにロープワークがあります。ロープワークは、結ぶときは簡単に結べて、結んだ後は、緩んだり解けたりすることがなく、また解きたいときには簡単に解けることが特徴です。ヨットやカッターなどの船舶の係留などに活用でき、レスキューや登山そして日常生活などいろいろな場面でロープワークが活用できます。今回は、簡単に日常で使えるロープワークを紹介しますよ。

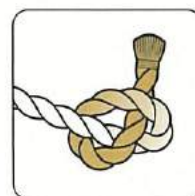
「ロープを結んでください。」と言われれば、ロープで輪っかを作ってロープの端を通しますよね。この結び方を「止め結び」といいます。止め結びの日常的な使い方として、結び目(こぶ)をうまく利用できます。

ジャージなどには、ジャージが落ちないようにウエストをしぼるひもが付いてますが、ひもの端っこは気を付けてないとジャージの中へ入ってしまうことがあります。この端っこを結んでこぶを作りひもが中に入らないように、何気なく結んで

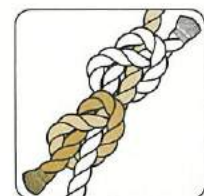
いるのが、「止め結び」です。

また、2つのロープにお互い止め結びをすることで、2つのロープをつなぎ合わせることができます。結び方の名前は「テグス結び」といいますが、釣り糸と釣り糸を結ぶために良く利用されています。

さらに、1つのロープを輪っかにして止結びでつなぎます。輪っかになり、ロープの長さを調節することができるので、ミサンガやプレスレットに楽しむこともできます。色彩がきれいな組みひもなどミサンガを作れば楽しみも倍増するかも。



止め結び



テグス結び

ガールスカウトの活動 夏の思い出

ガールスカウト川崎市連絡会

【14団】

私はキャンプ1日目に「ほうとう」を作りました。おいしかったです。夜はナイトハイクに行きました。くらくてこわかったけど、くらい所に行くのになれました。

2日目はプチャワークライミングに行きました。水はとても冷たくて寒かったけど、なれてきて腰まで、入れるようになりました。夜はファイヤーをして色んな歌をうたいました。スタンツもしてプチャワークライミングのことを話しました。

3日目はそうじをして朝のつどいをしました。その時、指文字でやくそくの歌をしました。上手にできたので、良かったです。 青木 美結 (小4)



【17団】

7月1～2日に黒川青少年野外活動センターで夏期キャンプに向けた宿泊訓練を行いました。ネイチャーゲームやキャンプクラフトを楽しみ、夕食は重ね煮を作りました。ブラウニーは食材を切って鍋に重ね、ジュニア以上はかまどを担当しました。上手に出来、みんなで美味しくいただきました。



〈ジュニアスカウトの感想〉

雨だったけど、ソングを歌ったり、野外料理をしたりして、みんなで楽しく過ごせて良かったです。

【32団】

40団と合同で、川崎市八ヶ岳少年自然の家にて夏キャンプを行いました。また、シニア・レンジャーは、ボルチモア交流派遣に参加しました。

ワイドゲームで測定をやり、自分の手の長さを知ることができ、ガールスカウトだけではなく、学校生活でもいかすことができると思います。

植村 燈 (小6)

ボルチモアのスカウトと交流出来たのが何よりも印象に残っています。ジェスチャーや簡単な単語、共通のゲームで親睦を深めることができ、初めて出会う子達と思い出を作ることが出来ました。

斎藤 千佳 (高1)



【31団】

4年ぶりの団キャンプだった。八ヶ岳の涼しく心地よい自然の中での2泊3日だった。

私は、最年長スカウトとしてリーダーの手伝いをしたり、キャンプファイヤーの企画・運営をしたりと様々なことを経験した。小学生以来のキャンプで自分の成長も感じた。

がっつりした野外活動が経験出来なかった小中学生も、ガールスカウトとしての知恵をいっぱい吸収できた良いキャンプだったと思う。

高野 紗 (高2)



【40団】

初めて参加したボルチモア。最初は緊張して何も話せなかったけど、徐々にみんなと距離を詰めることができました。

ソフィアとは2週間、ずっと一緒だったので色々な所へ遊びに行きました。例えば最終日に行ったスノーピーミュージアム。

ソフィアが好きと言っていたので行ってみたら結構楽しかったです。

またボルチモアと交流したいです！

浅貝 楓 (高1)



【48団】

7月15日から2泊3日で、山梨県の甲斐の国大和自然学校に団キャンプとして行きました。

ほうとう作り体験では、自分たちで小麦粉を混ぜて、包丁で切って麺を作ることができて、とても楽しかったです。

プチャワークライミングでは、山から流れてくる水がとても冷たくて驚きました。

森の中を歩いて行くのは、冒険をしているようでした。初めての場所で、知らない人との活動でしたが、仲良くできて良かったです。

色々な初めてがあってとても楽しい2泊3日が過ごせました。

原島 愛奈 (小6)



発行 川崎市青少年育成連盟
事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10
生活文化会館(てくのかわさき)3階
TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷 有限会社 アキプリント社